

NAREC Newsletter

ナレック ニュース・レター

No.61
2018年秋号

環境再生事例 関東

山崎の谷戸・ 景観と生態系を守る

鎌倉市との協働による地元の農文化を継承した保全活動

カテゴリ

自然環境



対象テーマ



環境教育



1

保全活動でつながる市民



1



2

JR大船駅の南約2kmに位置する鎌倉中央公園内にある山崎の谷戸は、古くから山崎の人の生活の場として利用され、近年まで昔ながらの暮らしが引き継がれてきました。田畑のある谷戸環境は、さまざまな生きものが棲み、日本の原風景といえる場所です。

私たち特定非営利活動法人山崎・谷戸の会は、この地を後世に残していきたいと活動してきました。現在、公益財団法人鎌倉市公園協会の運営する鎌倉中央公園において、行政と協働して保全活動を続けています。

公園内の田畑の維持管理には多くの人が参加し、市民活動の強みである臨機応変な対応力が活かされています。地元の伝統行事や、近隣の町内会の協力も得て実施する谷戸まつりなど、地域に根付いたコミュニティづくりの役割も果たしています。また、私たちは、谷戸の自然を環境教育の場として提供する活動に重点を置いてきました。毎年たくさんの近隣の小中学生が作業に参加しています。こうして赤ちゃんから高齢者までの幅の広い世代の人々が「谷戸を守る」共通の目的をもって集い、つながっています。

1. 鎌倉中央公園の位置

2. 山崎の谷戸での田んぼ・畑作業「稲刈り」

市民の手による 豊かな自然との共生



3

1966年に都市公園計画が決定したあとも、山崎の谷戸では、代々行われてきた農的な自然と共生した営みが続けられてきました。谷戸の底地には数百年耕作が続けられた田んぼが、丘の上や南向きの斜面には畑が広がり、斜面の雑木林では薪や、堆肥に使う落ち葉の採集が行われてきました。周辺地域の宅地造成が進む中、驚くほど多くの種類の生きものが見られました。このような環境を慈しむ市民は多く、生きものの観察・調査を行う団体や、身近な自然に親しむ子育て団体が活動を始めていました。

ところが、1990年に発表された鎌倉中央公園基本計画は、野外ステージ、デイキャンプ場などのある人工的

な公園をつくるものでした。谷戸の原風景や生きものを守りたい、とたくさんの市民から声があがり、やがて、自分たちで農作業を行うことが大切であると気づきます。地元の農家に米作りを教えてもらい、谷戸の田畑で市民活動が始まりました。

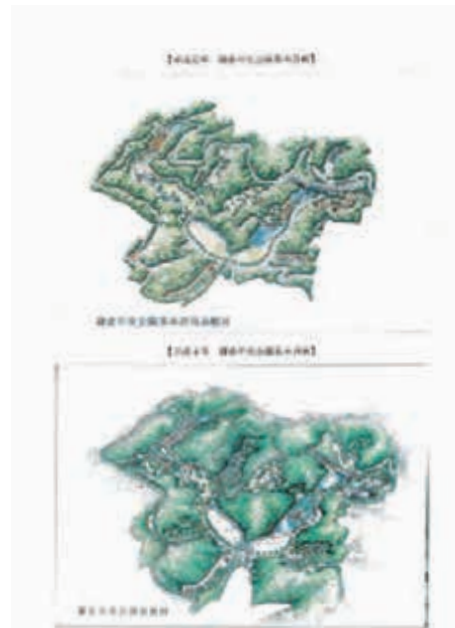
行政へは、①農的生態系を保護し、環境教育の場として活かせる ②湿地と水田を残し、市民が手入れできる ③計画段階から公園づくりに市民が参加し、行政とのパートナーシップに基づく管理運営ができる公園とする要望書を提出しました。協議を重ね、1997年に計画修正案が出されました。



4



5



6

3. 工事前の田んぼ作業
4. 工事前の田畑

5. 市民活動の始まり
6. 修正前、修正後の基本計画図

行政との協働で 守られる景観と生態系



7

2004年の鎌倉中央公園の全面開園にさきがけて、市民ボランティア活動が始まりました。10の市民団体の有志が集まり、鎌倉市、鎌倉市公園協会の3者協働で山崎・谷戸の会が発足しました。貴重な谷戸の景観と生態系を保全することを目的とした活動のスタートです。元地主さんより引き継いだ田畑を途切れずに耕作できたことは、生態系の保全にはとても有効でした。一方で、住宅地に囲まれた貴重な自然環境は、湿地、草地、雑木林の管理を含め、体系的に行うことが大切になりました。

谷戸：まわりを小高い山や丘陵に囲まれ、谷が細長く続く地形。「谷津(やつ)」「谷地(やち)」とも呼ばれる。湧水を利用した底地の水田、尾根や斜面の畑・雑木林で農業が営まれてきた。昔ながらの農法を持続してきた山崎の谷戸では、水辺や草地、林など変化に富んだ環境が狭い範囲に入り組んでいるため、多様な生きものが生息する。

保全作業は7つの班で行われています。

- | | |
|------------|--|
| (1) 田んぼ班 | 昔ながらの道具を使って手作業で行います。 |
| (2) 畑班 | 山崎伝来のたのくろ豆や小麦、芋類を中心に耕作します。 |
| (3) 雑木林管理班 | 里山の雑木林の復元を目指し、田畑に隣接する雑木林の手入れなど広範囲に作業します。 |
| (4) 生態系保全班 | 谷戸の生きものをモニタリングしながら環境の手入れ作業をします。 |
| (5) 植物育成班 | 昔から谷戸に育った植物を守り育てます。 |
| (6) 農芸班 | 味噌づくり、たくわんづくりなど、谷戸で収穫したものを加工します。 |
| (7) 自然遊び班 | 子どもたちが昔ながらの農作業に触れ、身近な自然に親しみ遊びます。 |

各班の活動回数は年間260回に及び、リーダーが連携して作業を進めています。



8



9



10



11

7. 現在の田んぼ・畑作業
8. 畑班・畑作業
9. 自然遊び班・小麦の脱穀

10. 雑木林管理班・除間伐
11. 土手の草刈り

地元の農文化を 継承した保全活動



12

保全活動は、地元の農文化を継承し、昔ながらの手作業で行うことを基本としています。田畑では、資源循環型の無農薬有機栽培を行い、作業により生まれる落ち葉、藁、糠、刈り草などを堆肥置き場に積みこみ、土づくりから手がけます。そして、まんのう、足踏み脱穀機、唐箕など、元地主さんより譲り受けた道具を手入れしながら使っています。

湿地、草地、土手や雑木林の手入れなど、耕作地以外の手入れも年間を通して行います。湿地復元、ソル植物除去作業などたくさんの人力が必要な大掛かりな作業もあれば、土手草刈りなど、環境の変化に伴ったきめ細やかな手入れ作業が必要なところもあります。雑木

林の復元を目指した作業は、下草刈り、除間伐を行い、植生物のモニタリングも行っています。

このように、大勢の市民参加により多様な環境を守っているため、作業の手法の指針が大切です。地元農家の方の聞き書きをまとめた「谷戸と暮らし」を基本に「谷戸の体験学習 指導の手引き」にまとめ、会員に伝えています。「谷戸塾」を開催し、実作業、生態系などの講座を行い、会員が共に学ぶ場を提供しています。その指導は農業経験者ではなく、当会の手法を熟練した会員が担っています。



13



14



15

12. 初心者を対象とした谷戸塾
13. 谷戸と暮らし

14. 万能(まんのう)
15. 足踏み脱穀機

保全活動の指針



16

会の発足時から、青空自主保育の家族や体験学習の学生の参加もあり、多世代参加型の活動を育んできました。公園内で、あらゆる世代の市民ボランティアが田畑耕作を行うという形式には、何らかの指針が必要です。近隣の他団体への見学を重ね、模索してきました。

現在、保全活動は3つの指針をもとに行われています。

①「地元の農文化の継承した活動」

元地主さんより引き継いだやり方で昔ながらの手作業で行います。

②「地域に根付いた活動」

山崎の伝統行事を大切にし、地元の方との交流が続いています。神輿の鳳凰には谷戸の稲が供えられ、担ぎ

手として参加しています。

③「環境教育の場としての活動」

1993年より学生の農業体験授業の受け入れを始め、現在は鎌倉市環境アドバイザーに登録して実施しています。年間活動回数40回、市内の小中学生のべ3,000人を受け入れています。教員研修を開催して、教育指導者へも深い理解を求めています。

多方面へのつながりを大切にした活動実績は、行政のバックアップという相乗効果を生み出してきました。現在では公園課、環境政策課、こどもみらい課、保育課、地域つながり推進課など複数の課及び教育委員会との連携した事業が行われています。



17



18



19

16. 小中学生を対象とした体験学習
17. 春の七草とどんど焼き

18. 神輿と神輿の鳳凰に備えられた谷戸の稲
19. 行政との話し合い

今後の展望と課題



20

- 20. かまくらレンジャーズ
- 21. 青空自主保育団体の湿地復元
- 22. 田んぼ班・田植え

保全活動は、自然環境の変化や毎年の気候の影響などを考慮しながら、熟練会員を中心に試行錯誤を重ねています。つる植物、帰化植物の駆除から植生物を保護する活動など、生態系の維持には課題もたくさんあります。多くの人がかかわり汗を流すことで、こうした課題を抱えながらも活動は円滑に進んでいます。青空自主保育の団体会員(親子)や、かまくらレンジャーズ*、先に述べた体験学習の子どもたちなど、若い力が活動の支えになっています。

現在の会員数は 350 人ほどです。しかし、人員の入れ替わりのある流動的な市民ボランティアでは、確かな



21



黒川美加 (くろかわみか)
1965 年生まれ
特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会 事務局長
●活動分野
里山保全、青空自主保育、保育者

運営の継続が大切と考えています。山崎・谷戸の会の前身の会が活動を開始してから 28 年、市との協働事業が始まって 14 年となり、運営の中心メンバーは会の発足当初を知らない世代へと交代する時期になりました。新たな展開の模索が始まっています。私たちは、谷戸に集う人々と行政と手を携え、これまで培ってきたつながりを大切に、新しい保全活動を描き実現していきたいと考えています。

* かまくらレンジャーズ: NAREC のボランティアシステム。環境保全団体のもとで作業の手伝いを行う。ボランティア参加者(隊員)は若手が多いことが特徴。



22

●連絡先
〒 247-0066
神奈川県鎌倉市山崎 1667
鎌倉中央公園管理事務所内
TEL: 0467-47-1164
E-mail: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

山崎・谷戸の会 HP
<http://yato-yamasaki.sakura.ne.jp/>



農山漁村の活性化および環境保全型農林業に係る活動

ふるさと未来創造プロジェクト

ふるさと未来創造プロジェクトでは農林水産省の進める農山漁村の活性化事業を活用し、平成 20 年度から全国各地約 50 の地域と協働しています。今回は、昨年度に実施が完了となった活動支援をご紹介します。



りんご摘果体験の実施

制作した
イベントチラシ

喜連川公方城下町再生プロジェクト協議会(通称: きつりずむ)

城下町、宿場町の歴史がある栃木県さくら市には、広大な水田が広がる喜連川地区があります。かつては若い世代の農業就労も盛んでしたが、平成 17 年以降は農家の 6 割が 60 代以上の高齢農家となり、次世代の担い手不足が進んでいます。第一次産業の衰退の影響も受け、最盛期と比べると農業生産額は 24% 減少していました。さくら市や喜連川地区の地域農業や歴史、自然の魅力を伝え、都市と農村をつなげる観光拠点となることを目指し、環境再生医の岩崎崇氏をプロジェクトマネージャーとした喜連川公方城下町再生プロジェクト協議会が設立されました。当協議会は平成 27 年度から 3 年間、同協議会のグリーン・ツーリズム事業化の支援を行いました。協議会では地元農家と住民が連携するグリーン・ツーリズムの仕組み作りのため話し

合いを重ね、地域の強みであるリンゴを活かしたプログラムの事業化や試行、検証を行うと共に、ホームページや SNS、冊子やパンフレットなどのプロモーション媒体の製作を支援しました。協議会交流人口は平成 26 年度では 0 名でしたが、平成 29 年は 81 名に上り、売り上げは約 50 万、雇用者も 2 名誕生しました。グリーン・ツーリズム「きつりずむ」ブランドの構築をもってスタートアップ期が終了し、今後は実施体制の強化やプログラムのレベルアップに向かう成長期となります。本年も多くイベント開催を予定しています。レトロで懐かしい雰囲気漂う栃木県さくら市喜連川の魅力を感じにきませんか。

●所在地
栃木県さくら市喜連川 4355

「身近な自然を守るレンジャーズプロジェクト」

RANGERS PROJECT.

今年は 8 月もミッションを開催!

今回は昨年から始まったおおさかレンジャーズフィールドの中から芥川緑地で実施したミッション「水辺の環境整備! in 芥川緑地」を紹介いたします。

おおさかレンジャーズ



水辺の環境整備!
in 芥川緑地
(2018 年 8 月 18 日)

気持ちの良い夏空の中、大阪府高槻市にある芥川緑地にておおさかレンジャーズのミッションを行いました。8 月のミッションのため、熱中症が懸念されましたが、大阪は前日から涼やかで当日も気持ちのいい風が吹いていました。今回は鮎をはじめてとした魚遡上のための魚みち(魚道)に積もった石や土砂取り除く作業を行いました。参加した隊員は 12 名、芥川緑地では過去最多の参加人数です。長さ 17 m、高さ 1.5 m の魚みちを川の壁側から半周させるよう深く掘り出し、川を繋げました。ミッション中

に川を観察したところ鮎が約 20 匹生息していることも確認でき観察も行いました。夏休みという季節柄が親子で参加された方や高校生の姿もみられ、川へ投石したりスコップで掘りだした土砂を投げたりと、明るい雰囲気の中でミッションを行いました。現地の方やボランティアの方も交え総勢 20 名という大人数で作業を続けたところ、埋もれていた水がどんどん溢れ出し、魚みちは予定より 30 分早い 1 時間半で魚がのぼれる状態になりました。

参加いただいた隊員の皆様、現地の芥川倶楽部の皆様本当にありがとうございました。平成 30 年度おおさかレンジャーズの活動は第 8 回大阪マラソンの寄付金を活用しています。

総会・理事会のご報告

平成 30 年度定期総会

平成 30 年 6 月 16 日(土) 10:15-11:45、エコギャラリー新宿(東京都新宿区)にて平成 30 年度定期総会を開催しました。

「平成 29 年度事業報告」「平成 29 年度活動決算報告」「定款変更」「役員改選」の審議を行いました。さらに「平成 30 年度事業計画」「平成 30 年度活動予算」の報告を行いました。

●審議事項

第 1 号議案 平成 29 年度事業報告

第 2 号議案 平成 29 年度活動決算

第 3 号議案 定款変更

第 4 号議案 役員改選

●報告事項

(1) 平成 30 年度事業計画

(2) 平成 30 年度活動予算

平成 30 年度第 2 回臨時理事会

平成 30 年 6 月 16 日(土) 11:45-12:20、エコギャラリー新宿(東京都新宿区)にて平成 30 年度第 2 回臨時理事会を開催しました。

「理事長・副理事長の選任」を行い石川晶生理事が理事長職を再任

することとなりました。副理事長は該当者がございませんでした。

●審議事項

(1) 理事長・副理事長の選任

平成 30 年度第 3 回理事会

平成 30 年 8 月 17 日(金) 18:30-21:30、四谷地域センター(東京都新宿区)にて平成 30 年度第 3 回理事会を開催しました。

「顧問・特別顧問に関する規程」「組織図の改編」について審議を行いました。

さらに、「顧問について」「総会での意見について」「今後の他団体との関係について」等の検討を行いました。

●審議事項

(1) 顧問・特別顧問に関する規程

(2) 組織図の改編

●検討事項

(1) 顧問について

(2) 総会での意見について

(3) 今後の他団体との関係について

(4) その他

第 8 回 大阪マラソン

チャリティランナーを応援しよう!

大阪の身近な自然を守る「おおさかレンジャーズ」の活動のため、25名のランナーが各自 7 万円のチャリティに挑戦中です。チャレンジ内容は JAPANGIVING のプロジェクトページからご覧いただけます。チャリティ期限の 10 月 31 日、全員の目標達成を目指します! 応援やご寄付はランナーの皆様の励みとなりますので、皆様の温かなご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

プロジェクトページ https://marathon.japangiving.jp/supporter/project_display.html?project_id=9



カップパ隊募集

大会当日の応援団、通称「カップパ隊」を募集中です。水色チームのランナーさんを沿道応援します。元気のある方のご応募お待ちしております!

詳細・お申し込み <http://www.narec.or.jp/osaka2018/>



事務局よりご案内

事務局ボランティア・インターン募集中

事務局(東京都新宿区)にて事務ボランティア・インターンを募集しています。

当協会の業務を通じて環境保全の仕事を学んでみませんか。

① レンジャーズプロジェクト:

身近な自然を守る環境保全活動。運営業務・リーダー候補を募集中。資格補助制度あり。

② 環境再生医・会員・広報・ファンドレイジング:

入力作業、記事・イラストの作成、発送業務、ホームページ・SNS の更新、イベントスタッフ等

③ ふるさと未来創造プロジェクト:

農山漁村で活動する団体支援業務。事務作業、文書作成、支援団体調整等、プロジェクト担当者の補佐を行います。

上記の他、発送業務などの軽作業もありますので事務が未経験の方も気軽にご連絡、ご相談ください。

ご応募: 以下、お申し込みフォームから必要事項記入し、送信ボタンを押してください。面談の上決定いたします。

<http://www.narec.or.jp/volunteer/staff/form/>

学生の方でインターン希望(3 か月以上・週 1 回から)の方は備考欄へ「インターン希望」とご記入下さい。

発行

特定非営利活動法人 自然環境復元協会

〒160-0014

東京都新宿区内藤町 1-7-201

TEL: 03-6273-1084

FAX: 03-6273-1086

E-mail: info@narec.co.jp

HP: <http://www.narec.or.jp/>

●本紙は、有限会社エクスプロールの協力により制作しています。

R100
古紙・パルプ配合率 100% 再生紙を使用